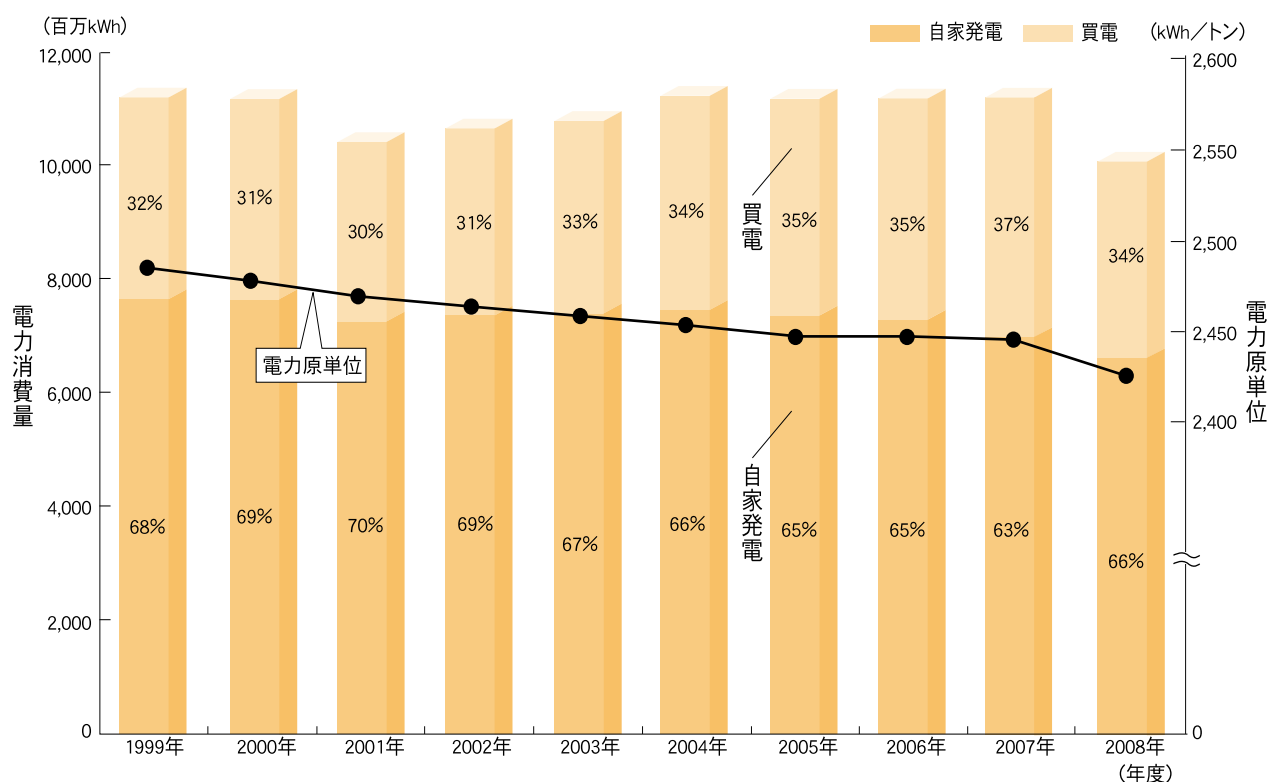


電解ソーダ工業の電力消費量、買電・自家発電比率、電力原単位の推移



(単位：百万 kWh)

年度	電力消費量			電力原単位 kWh / t
	買電 (構成比)	自家発電 (構成比)	計	
1999年	3,487 (32%)	7,556 (68%)	11,043	2,485
2000年	3,361 (31%)	7,621 (69%)	10,982	2,479
2001年	3,090 (30%)	7,287 (70%)	10,377	2,462
2002年	3,309 (31%)	7,389 (69%)	10,698	2,460
2003年	3,498 (33%)	7,265 (67%)	10,763	2,458
2004年	3,825 (34%)	7,306 (66%)	11,131	2,452
2005年	3,815 (35%)	7,212 (65%)	11,027	2,444
2006年	3,864 (35%)	7,082 (65%)	10,946	2,449
2007年	4,069 (37%)	6,912 (63%)	10,981	2,447
2008年	3,406 (34%)	6,630 (66%)	10,036	2,426

注) 買電は、電力会社等から購入する電力のこと。電力原単位は、カセイソーダを1トン生産するのに必要な電力消費量を表す。

2008年度の電解ソーダ工業の電力消費量は、カセイソーダの生産量の減少に伴い、減少しました。カセイソーダの生産量が8%減少したのに対して、電力消費量は8.6%の減少で、若干減少幅が大きくなりました。これは、電力原単位が向上したということです。

自家発電と買電の比率は、66%と34%で、前年度に比べて、3%、自家発電比率が高まりました。これは、原油の高騰により、自家発電シフトが高まったものです。

また、2008年度の電力原単位は、前年度に比べて、0.9%も低くなりました。2007年度までの5年間での減

少率が0.45%ですので、これは、かなりの電力原単位の向上と考えられます。

わが国の電解ソーダ工業は、すべての製造設備が、世界一の省エネルギー効率を誇る、イオン交換膜法電解法となっています。成熟産業と言われながらも、この10年間で電力原単位を2.4%も向上させ、世界をリードするイオン交換膜法電解技術のさらなる開発を進めています。

また、電力消費量の4割削減が可能という「ガス拡散電極」の実用化を含めて、地球温暖化対策として、より一層の省エネルギーに向けて、積極的に取り組んでいます。